

東日本大震災現地NPO応援基金[特定助成]
東日本大震災復興支援 JT NPO 応援プロジェクト

第 12 回選考結果のご報告

2016 年 6 月

特定非営利活動法人 日本 NPO センター

目次

| | |
|---------------------------------|----|
| 1.第 12 回助成対象事業一覧 | 1 |
| 2.第 12 回助成選考総評..... | 2 |
| 3.第 12 回助成概要と選考理由 | 4 |
| 4. 第 12 回助成応募概況 | 7 |
| 5. 助成対象事業一覧(第 1 回～第 12 回) | 11 |

1.第 12 回助成対象事業一覧

助成件数:6 件 助成総額: 2,231 万円

| 助成 番号 | 事業名 | 団体名 | 所在地 | 助成額 |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------|------------------------------------|--------------|-----------|
| 12-1 | 滝沢市内在住の内陸避難者を対象とした交流活動及び生活支援相談実施事業 | 特定非営利活動法人 いなほ | 岩手県 盛岡市 | 351 万円 |
| 12-2 | 「米崎りんご」を通じた若者の育成と後継者育成の為にコミュニティ形成事業 | 一般社団法人 SAVE TAKATA | 岩手県 陸前高田市 | 482 万円 |
| 12-3 | 気仙沼大島における、地域住民との協働による教育コミュニティの構築活動 | ACTION-students' project for 3.11- | 宮城県 気仙沼市 | 330 万円 |
| 12-4 | 福島県富岡町の暮らしの記憶を次世代へ継承する事業 | 特定非営利活動法人 とみおか子ども未来ネットワーク | 東京都 八王子市 | 397 万円 |
| 12(継)-1 | 被災地の人的資源と連携した自立的長期メンタルヘルス支援サービスの構築 | 認定特定非営利活動法人 心の架け橋いわて | 岩手県 大槌町 | 371 万円 |
| 12(継)-2 | いいたてミュージアムーまでの未来へ記憶と物語プロジェクトー2016 | いいたてまでの会 | 福島県 福島市 | 300 万円 |
| <p>*第 12 回助成は 2016 年 4 月 1 日から 4 月 15 日までの応募について 4 月、5 月、6 月に選考し助成が決定した。 *助成期間は 2016 年 7 月 1 日から 2017 年 6 月 30 日までの 1 年間。 *心の架け橋いわて、いいたてまでの会は第 8 回助成対象団体で何れも継続して助成することとなった。</p> | | | | |

2.第12回助成選考総評

選考委員長 大橋 正明

[JT NPO 応援プロジェクト概要]

東日本大震災復興支援 JT NPO 応援プロジェクトは、特定非営利活動法人日本 NPO センターが 2011 年 3 月から行っている、東日本大震災現地 NPO 応援基金に対して、日本たばこ産業株式会社から寄付を受け、2013 年 8 月から実施している助成プログラムである。3 年間で計 11 回の助成を行い、66 のプロジェクトに計 2 億 6 千万円を超える助成を行ってきた。

[応募状況]

第 12 回助成は、2016 年 3 月より公募を開始し、2016 年 4 月 1 日～4 月 15 日に応募を受け付けた。新規助成への応募は 48 件、応募事業の活動地域は宮城県が最も多く、全体の約 5 割を占め、次いで福島県が 3 割、岩手県が 2 割であった。また、継続助成への応募は、継続 2 年目が 3 件、継続 3 年目が 1 件、計 4 件であった。

[選考プロセス]

新規助成の選考は、これまでと同様、まず事務局による予備審査を行い、助成の趣旨や団体要件への適合性、選考基準にもとづいて、本審査の対象として相応しいと判断した 21 件を選出した。本審査では 5 名の選考委員が 21 件の応募書類を読み込み、各委員が選考基準にもとづいて総合的に評価が高いと判断した 5 件を推薦し、これを選考委員会に持ち寄り、活発に議論を交わし、助成候補 6 件を選出した。その後、事務局スタッフが 6 件を現地訪問し、活動の状況や選考委員会で挙げられた点について詳細なヒアリングを行った。なお、1 件はヒアリング時に応募の取り下げがあった。選考委員長は 5 件のヒアリングの結果を加味して助成対象と金額を検討し、最終的に助成対象 4 件、助成総額 1,560 万円を決定した。

継続助成の選考は、これまでの取り組みと今回の応募プロジェクトの企画内容について、各選考委員が選考基準にもとづいて評価を行ったうえで、選考委員会で助成候補 3 件を選出した。その後、事務局スタッフが現地ヒアリングを行い、選考委員長の決裁を経て、助成対象 2 件、助成総額 671 万円を決定した。新規助成と継続助成を合わせた助成件数は 6 件、助成総額は 2,231 万円となった。

[応募内容の全体的な特徴と選考のポイント]

今回の応募内容から窺える全体的な特徴として以下の 3 点が挙げられる。

- (1) 被災者が抱える課題と支援の状況は、被災から 5 年間が経過し一層変化している
- (2) 多様化したニーズや支援状況を反映して、応募内容はこれまで以上に幅広い
- (3) 被災者に限定したコミュニティづくりを主眼とした取り組みはかなり少ない

今回の審議では、被災した地域の人々がイニシアチブを発揮しているプロジェクトが全体的に評価された。これは、今回の助成が本プログラムの 3 年間の最後の審査であることを踏まえ、今後の復興支援活動と団体の継続性が意識されたからである。

本プログラムのテーマである「コミュニティの再生」の視点で審議を振り返ると、一般的に挙げられる仮設住宅あるいは復興公営住宅における住民のコミュニティ形成だけではなく、それぞれの地域の特性や状況をとらえた多様なコミュニティづくりを期待した選考だったと言える。最終的に助成対象となったプロジェクトの内容も、内陸避難者を支えるためのコミュニティづくり、住民が若者・子どもを育てるコミュニティづくり、原発事故による避難者を結ぶコミュニティづくり、住民が専門家と協力して支援を必要とする人々を支えるコミュニティづくりと様々であった。

一方で、選考基準に挙げている参加性や連携性の視点から、単発のイベント開催を軸とするプロジェクトや、他の団体や行政と協力関係がつかれていないプロジェクトは、評価を下げた。これらのプロジェクト自体の意義や生み出されるだろうインパクトは一定の評価ができるが、コミュニティづくりに必要な定常的なインパクトが期待できないという評価であった。

また、応募プロジェクトの継続性や今後の展望は、地域性(被害の大きさ、地域の特徴、自治体の力量、他の NPO 等の活動状況など)に左右される部分が大きく、前回と同様に多くの団体が模索段階にあった。プロジェクトの内容によっては短期的な結果を求めず、中長期的に成果を出していくことの必要性が確認された。2011 年 3 月の大震災から 5 年が経過するだけではなく、被災地の人々の多様な期待や希望に応じてきた民間非営利組織がより安定的に活動が行えるよう、支援・応援することを目的とした本プログラムも、当初計画の 3 年間の

最後の助成審査となった。助成を受けた団体がプロジェクトをしっかり行うことはもちろん、助成終了後からの中長期間の状況をよく見据え、被災者と復興のためにNPOならではの取り組みを、持続可能な形で取り組み続けることを切に願うものである。

【選考委員】

- | | | |
|-----|--------|--------------------------------------|
| 委員長 | 大橋 正明 | 特定非営利活動法人 日本NPOセンター 副代表理事 |
| 委員 | 栗田 暢之 | 特定非営利活動法人 レスキューストックヤード 代表理事 |
| 委員 | 後藤 麻理子 | 特定非営利活動法人 日本ボランティアコーディネーター協会 理事・事務局長 |
| 委員 | 諏訪 徹 | 日本大学 文理学部 社会福祉学科 教授 |
| 委員 | 永田 亮子 | 日本たばこ産業株式会社 執行役員 |

3.第 12 回助成概要と選考理由

| | |
|--------|------------------------------------|
| 助成番号 | 12-1 |
| 事業名 | 滝沢市内在住の内陸避難者を対象とした交流活動及び生活支援相談実施事業 |
| 団体名 | 特定非営利活動法人 いなほ |
| 主な活動地域 | 岩手県盛岡市 |

【選考理由】

いなほは、岩手県の内陸部に位置する滝沢市で、沿岸部からの避難者への支援活動を行ってきた団体である。

5年にわたる避難生活で、避難者に高齢化や心身状態の低下が見られ、細やかな対応が求められているが、行政や社会福祉協議会による個別支援体制は十分ではなく、本団体によるサロン活動がこれを補完している。また、避難者が立ち上げた自助グループと本団体は連携し、沿岸部からの避難者と滝沢市内の住民とをつなぐ役割を果たしている。

本プロジェクトでは、既存のサロン活動に加え、健康状態の悪化からサロンなどへの参加が難しくなった避難者への関わりを強化し、孤立化を防ぐとともに、必要に応じて種々の支援サービスにつなぐための戸別訪問活動を新たに計画している。また、避難者が制作した手工芸品の展示会を開催し、避難者のやる気を引き出そうという試みも計画している。

本プロジェクトは復興のフェーズに応じて活動内容を変化させていく柔軟な視点を有していると評価した。息の長い生活支援活動となるよう期待したい。

| | |
|--------|-------------------------------------|
| 助成番号 | 12-2 |
| 事業名 | 「米崎りんご」を通じた若者の育成と後継者育成の為のコミュニティ形成事業 |
| 団体名 | 一般社団法人 SAVE TAKATA |
| 主な活動地域 | 岩手県陸前高田市 |

【選考理由】

SAVE TAKATAは、東日本大震災直後の2011年3月に、津波で壊滅的な被害を受けた岩手県陸前高田市の復興と発展に寄与するために設立され、震災前からの地域課題でもあった超高齢化や若者の減少、産業の衰退などに対して様々な活動を展開し、もはや地元になくはならないNPOの代表格として認識されるまでに至っている。

本プロジェクトは、後継者不足に悩む地元の農家と首都圏を含む地域内外の若年無業者をつなぎ、地元の特産品である「米崎りんご」を復興途上にある陸前高田市の産業として発展させようとするものである。また、地元のりんご農家はもちろんのこと、市の農林課、市社協の他、若者の就労支援に取り組むNPOなど、様々なセクターの協力を得て実施する。

一団体の願いを超えて、協働で取り組む姿勢を評価した。行政による大型復興プロジェクトが佳境を迎える中、このような民間発の取り組みが、今後の真の復興の下支えとなるよう期待したい。

| | |
|--------|------------------------------------|
| 助成番号 | 12-3 |
| 事業名 | 気仙沼大島における、地域住民との協働による教育コミュニティの構築活動 |
| 団体名 | ACTION-students' project for 3.11- |
| 主な活動地域 | 宮城県気仙沼市 |

【選考理由】

ACTION -students projects for 3.11-は、関西の学生たちが、大きな津波被害を受けた宮城県気仙沼市の離島・大島に定期的に通い、大島の子どもたちが島の仕事、暮らし、文化を学び、壁新聞を作成するワークショップを通じて、地域の魅力を発見し、地域に誇りと愛着をもつための活動を5年間にわたり行ってきた。

本プロジェクトは、大島の小・中・高校生を対象にした学習サポート活動と、住民が「島の先生」となって子どもたちに生活の技や島への想いを伝えるワークショップ活動を通じて、島に新しい教育コミュニティをつくらうとするものである。

島外の大学生主体の活動から、島民と協働したより地域に根差した活動へと展開し、2年後には島と本土を結ぶ橋が架けられることから、島の在り方も見据えた長期的なコミュニティづくりや、島の次代を担う子どもたちの育成へとつながるよう期待したい。

| | |
|--------|---------------------------|
| 助成番号 | 12-4 |
| 事業名 | 福島県富岡町の暮らしの記憶を次世代へ継承する事業 |
| 団体名 | 特定非営利活動法人 とみおか子ども未来ネットワーク |
| 主な活動地域 | 福島県富岡町 |

【選考理由】

福島県富岡町は、東日本大震災に伴う東京電力福島第一原子力発電所の事故により、現在も避難地域となっており、町民は全国各地で避難生活を余儀なくされている。

とみおか子ども未来ネットワークは、こうした長きにわたる離散で段々薄れゆく「ふるさと富岡」の記憶を、高齢者が話し手となり、若者が聞き手となって記録し、町のアイデンティティを残し、継承していく活動を続けている。

本プロジェクトは、震災前に約1,400人いた若者に呼び掛け、丁寧な研修を実施した上で、高齢者にインタビューを行い、原稿を作成し、発表会を開催しようとするものである。

民間ならではの発想に基づくものであり、震災の風化が叫ばれている中、地道でも着実に達成しようとする真摯な姿勢を評価した。事実上ふるさとを奪われ、無念さや絶望感を抱いている方々に、本プロジェクトが未来への大きな希望の懸け橋となるよう期待したい。

| | |
|--------|------------------------------------|
| 助成番号 | 12(継)-1 |
| 事業名 | 被災地の人的資源と連携した自立的長期メンタルヘルス支援サービスの構築 |
| 団体名 | 認定特定非営利活動法人 心の架け橋いわて |
| 主な活動地域 | 岩手県大槌町 |

【選考理由】

岩手県大槌町は、自発的な通院が困難な統合失調症や認知症を抱えた人、長期未治療事例や震災による病態の悪化など、精神医療の過疎地ならではの課題がある。

本プロジェクトは、心の架け橋いわてが、多職種のメンタルヘルスの専門家によるチームを組み、サロンでの相談活動と被災者宅への継続的な訪問活動に取り組むもので、2年目の助成となる。

本団体は、行政や社会福祉協議会からの依頼が増加しており、これらと連携して被災者宅への同行訪問を行うなど、プロジェクトの実効性は高い。また、新規事業として、団体の拠点を活用してコミュニティカフェを整備し、住民参加型のサロン運営を計画している。

助成終了後の展望として、県外の支援者の協力を得た活動から、段階的に支援活動の担い手を岩手県在住の支援者に移行する構想があり、既にインターンシップを導入するなど地域の人材育成にも着実に取り組んでいることから、今後の展開に期待し、助成を決定した。

| | |
|--------|-----------------------------------|
| 助成番号 | 12(継)-2 |
| 事業名 | いいたてミュージアムーまでの未来へ記憶と物語プロジェクトー2016 |
| 団体名 | いいたてまでの会 |
| 主な活動地域 | 福島県飯舘村、福島市 他 |

【選考理由】

福島県飯舘村は原発事故により全村避難となり、いいたてまでの会は、失われつつある飯舘村の生活と文化を、村民が所有する「モノ」によって語るプロジェクトに取り組んでいる団体である。

2年間の助成によって、村民ひとり一人に丁寧なインタビューを行い、「モノ」が語れるように記録することで、飯舘村独自の「物語」を紡いできた。また、図録や冊子の制作、県内・県外での巡回展や展覧会を通じて、村民や福島県民のみならず、広く飯舘村のことを知ってもらうための活動に取り組んできたことを評価した。

3年目の助成となる本プロジェクトは、巡回展などによる情報発信を継続するとともに、飯舘村の中学生を取材対象に加えることで、若年層の村への誇りを醸成する。

本プロジェクトが、飯舘村の帰村が実現した後も、将来にわたり、村民間の心のつながりや絆づくりのきっかけとなるよう期待したい。

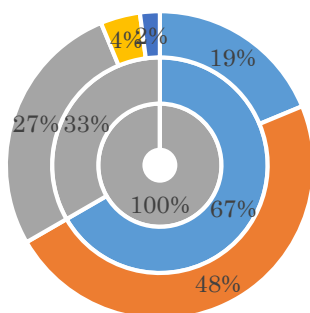
4. 第12回助成応募概況(応募期間:2016年4月1日(金)～4月15日(金))

(表)

| | 新規助成 | 継続助成(2年目) | 継続助成(3年目) |
|----------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------|
| ■応募件数 | [合計] 48 件 [再応募] 23 件(47%) | [合計] 3 件 [再応募] 0 件(0%) | [合計] 1 件 [再応募] 0 件(0%) |
| ■助成希望額 | [合計] 2億603 万円 [平均] 429 万円 [最高] 500 万円 [最低] 300 万円 | [合計] 1,171 万円 [平均] 390 万円 [最高] 400 万円 [最低] 374 万円 | [合計] 300 万円 [平均] 300 万円 [最高] 300 万円 [最低] 300 万円 |
| ■活動地域 ※0内は割合 | [岩手県] 9 件(19%) [宮城県] 23 件(48%) [福島県] 13 件(27%) [複数県] 2 件(4%) [3県外] 1 件(2%) | [岩手県] 2 件(67%) [宮城県] 0 件(0%) [福島県] 1 件(33%) [複数県] 0 件(0%) | [岩手県] 0 件(0%) [宮城県] 1 件(100%) [福島県] 0 件(0%) [複数県] 0 件(0%) |
| ■団体所在地 ※本部事務所 ※0内は割合 | [岩手県] 9 件(19%) [宮城県] 22 件(46%) [福島県] 10 件(21%) [3県外] 7 件(14%) | [岩手県] 2 件(67%) [宮城県] 0 件(0%) [福島県] 1 件(33%) [3県外] 0 件(0%) | [岩手県] 0 件(0%) [宮城県] 1 件(100%) [福島県] 0 件(0%) [3県外] 0 件(0%) |
| ■設立時期 ※0内は割合 | [震災前] 10 件(21%) [震災後] 38 件(79%) | [震災前] 1 件(33%) [震災後] 2 件(67%) | [震災前] 0 件(0%) [震災後] 1 件(100%) |
| ■法人格 ※0内は割合 | [NPO] 23 件(48%) [一般社団] 10 件(21%) [その他] 0 件(0%) [法人格なし] 15 件(31%) | [NPO] 2 件(67%) [一般社団] 1 件(33%) [その他] 0 件(0%) [法人格なし] 0 件(0%) | [NPO] 0 件(0%) [一般社団] 0 件(0%) [その他] 0 件(0%) [法人格なし] 1 件(100%) |

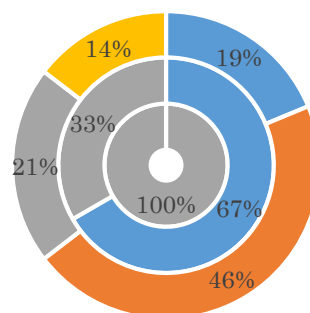
(グラフ) 一番外側の円＝新規助成／真ん中の円＝継続助成 2 年目／一番内側の円＝継続助成 3 年目

活動地域



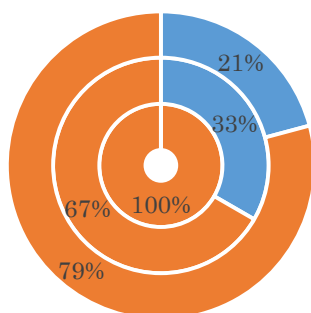
■ 岩手県 ■ 宮城県 ■ 福島県 ■ 複数県 ■ 3 県外

団体所在地



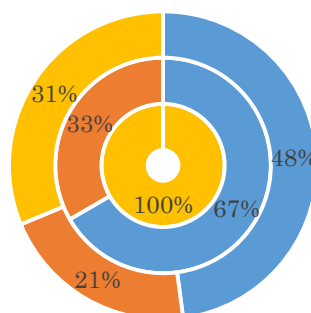
■ 岩手県 ■ 宮城県 ■ 福島県 ■ 3 県外

設立時期



■ 震災前 ■ 震災後

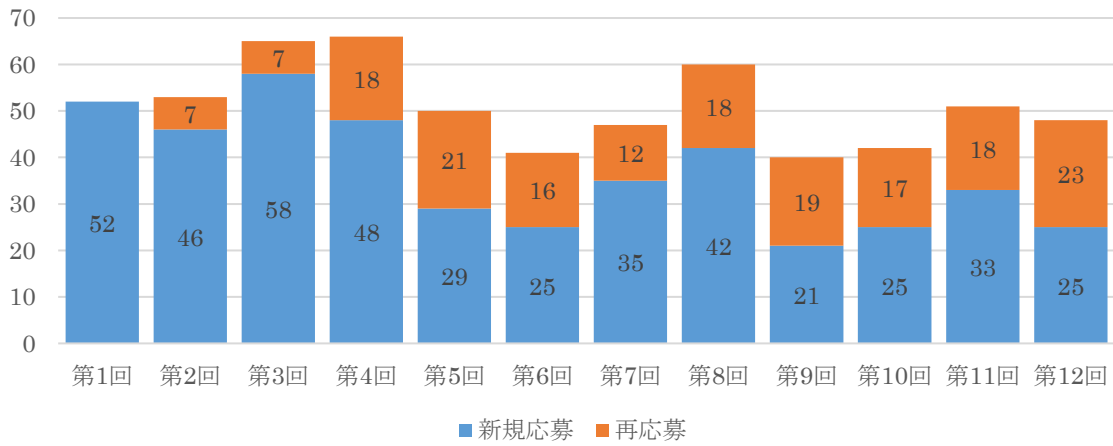
法人格



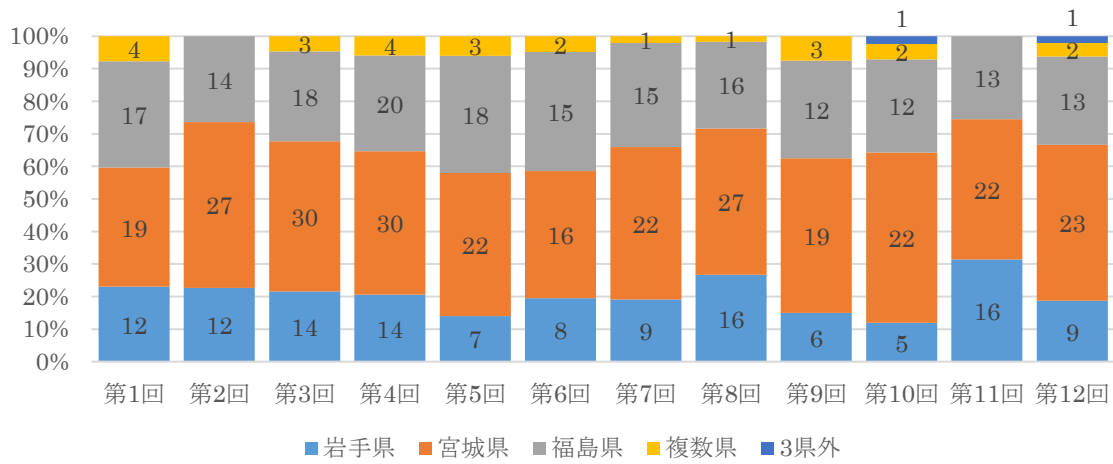
■ NPO ■ 一般社団 ■ その他 ■ 法人格なし

■過去助成回応募概況(第1回～第12回) ※新規助成のみ

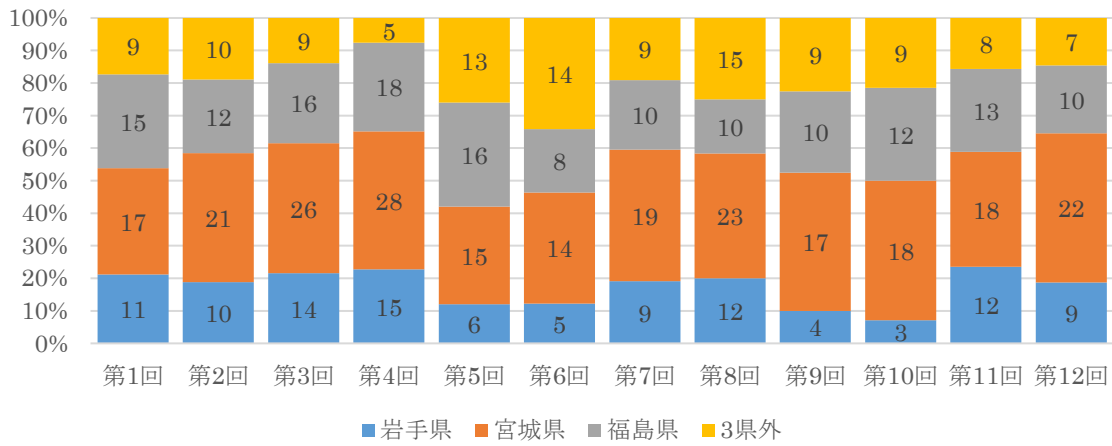
応募件数



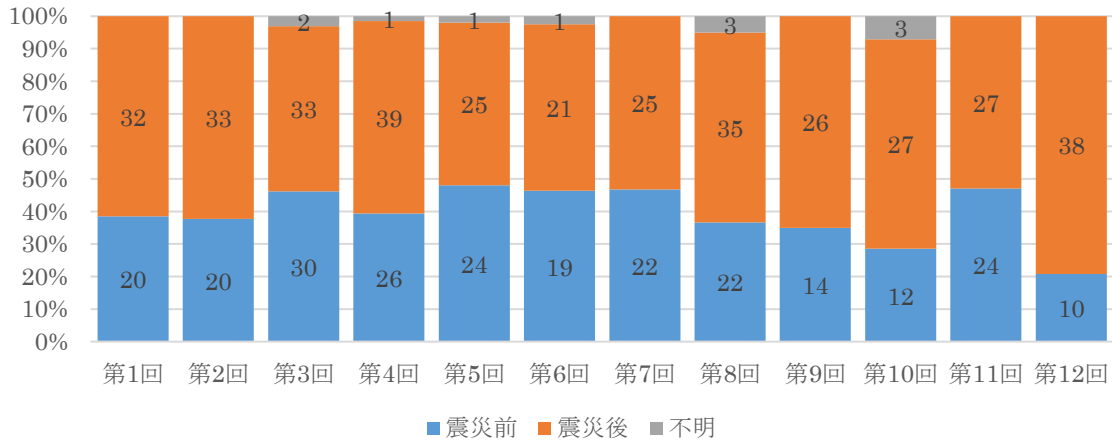
活動地域



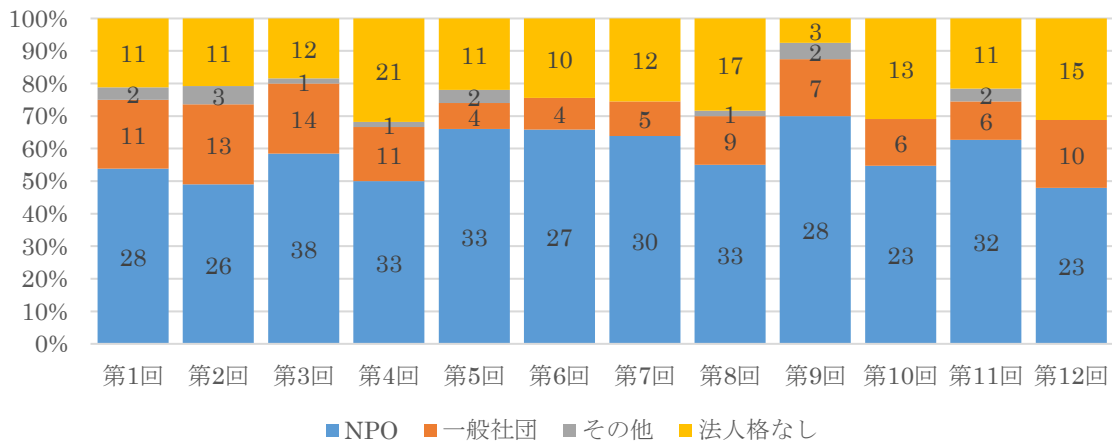
団体所在地



設立時期



法人格



5. 助成対象事業一覧(第1回～第12回)

助成件数 72 件 (新規 51 件、継続 21 件)

助成額合計 : 2 億 8,740 万 4 千円 (新規 2 億 1,429 万 4 千円、継続 7,311 万円)

◆岩手県 13 件 (新規助成 11 件、継続助成 2 件) (助成額合計 5,528 万円)

| | 事業名 | 団体名/代表者名 | 活動地域 | 助成額 |
|-------|---------------------------------------------------------|-------------------------------------------|--------------------|-----------|
| 第 2 回 | 水中清掃活動並びにその後の子供を対象としたスノーケル教室 | 特定非営利活動法人 ブルーサポートいわて 理事長 青木 亘 | 岩手県 大船渡市 | 312 万円 |
| 第 2 回 | 外部の若者との「交流」と「挑戦」から生まれる協働事業モデルの創出 | 特定非営利活動法人 SET 理事長・現地統括 三井 俊介 | 岩手県 陸前高田市 | 400 万円 |
| 第 3 回 | 東日本大震災文化芸術復興支援事業 希望の飛沫プロジェクト「岩手県三陸沿岸児童・生徒参加型創作ミュージカル公演」 | 特定非営利活動法人 劇団ゆう 理事長 菊田弟一 | 岩手県 大船渡市 洋野町 | 500 万円 |
| 第 4 回 | 岩手に根ざした「和グルメ」を全国発信し地域の産業創出 | 一般社団法人 SAVE IWATE 理事長 寺井 良夫 | 岩手県 盛岡市 野田村 | 483 万円 |
| 第 6 回 | 福祉有償運送事業 (障害者や要介護高齢者などの暮らしを支える生活支援) | 特定非営利活動法人 愛ネット高田 代表理事 千葉 丑美 | 岩手県 陸前高田市 | 500 万円 |
| 第 7 回 | 入浴買い物バス運行による元気・絆復活 | 特定非営利活動法人 いわて地域づくり支援センター 代表理事 廣田 純一 | 岩手県 田野畑村 | 444 万円 |
| 第 8 回 | 大槌町の若手世代対象:自分の町の魅力(再)発見事業 | 一般社団法人 おらが大槌夢広場 代表理事 白沢 和行 | 岩手県 大槌町 | 500 万円 |
| 第 8 回 | 被災地の人的資源と連携した自立的長期メンタルヘルス支援サービスの構築 | 認定特定非営利活動法人 心の架け橋いわて 理事長 鈴木 満 | 岩手県 大槌町 | 485 万円 |

| | | | | |
|------------|-------------------------------------|--------------------------------------|--------------|-----------|
| 第10回 継続 | 障害者や要介護高齢者等の暮らしを支える福祉無償運送事業 | 特定非営利活動法人 愛ネット高田 代表理事 岡本 幸子 | 岩手県 陸前高田市 | 400 万円 |
| 第11回 | 東日本大震災の内陸避難者を支える活動 | いわてゆいっこ花巻 代表 大桐 啓三 | 岩手県 花巻市 | 300 万円 |
| 第12回 | 滝沢市内在住の内陸避難者を対象とした交流活動及び生活支援相談実施事業 | 特定非営利活動法人 いなほ 代表理事 佐藤 昌幸 | 岩手県 盛岡市 | 351 万円 |
| 第12回 | 「米崎りんご」を通じた若者の再生と後継者育成の為にコミュニティ形成事業 | 一般社団法人 SAVE TAKATA 代表理事 佐々木 信秋 | 岩手県 陸前高田市 | 482 万円 |
| 第12回 継続 | 被災地の人的資源と連携した自立的長期メンタルヘルス支援サービスの構築 | 認定特定非営利活動法人 心の架け橋いわて 理事長 鈴木 満 | 岩手県 大槌町 | 371 万円 |

◆宮城県 31件（新規助成23件、継続助成8件）（助成額合計1億1,988万4千円）

| | 事業名 | 団体名／代表者名 | 活動地域 | 助成額 |
|-----|------------------------------------------|--------------------------------------------|--------------------|-------------|
| 第1回 | 津波被災地における女性視点でのくらしの課題解決の事業化支援 | 特定非営利活動法人 ウィメンズアイ 代表理事 石本 めぐみ | 宮城県 登米市 | 498 万円 |
| 第1回 | 在宅住民・仮設住宅住民の孤立防止と災害公営住宅入居者のコミュニティ形成 | 特定非営利活動法人 日本国際ボランティアセンター 代表理事 谷山 博史 | 宮城県 気仙沼市 | 349 万円 |
| 第1回 | 子育てと就労・コミュニティを包括した事業モデルの創出 | 特定非営利活動法人 ピースジャム 理事長 佐藤 賢 | 宮城県 気仙沼市 | 499.4 万円 |
| 第2回 | 地域住民への生活支援、地域コミュニティ形成の促進プロジェクト | 特定非営利活動法人 生活支援プロジェクトK 代表理事 阿部 正孝 | 宮城県 気仙沼市 | 440 万円 |
| 第3回 | 南三陸自然史学舎（しぜんのまなびや）構想実現のための2プロジェクト推進 | 特定非営利活動法人 海の自然史研究所 代表理事 藤田 喜久 | 宮城県 本吉郡 南三陸町 | 350 万円 |
| 第3回 | 私営公民館の運営と地域コミュニティの活性化事業 | 雄勝まちづくり協会 理事長 及川 拓磨 | 宮城県 石巻市 雄勝町 | 360 万円 |
| 第3回 | HANA 荘コミュニティ運営支援事業 | 特定非営利活動法人 石巻スポーツ振興サポートセンター 理事長 松村 善行 | 宮城県 石巻市 | 300 万円 |
| 第4回 | ボランティア・ツアーの継続促進と、発信地との相互交流（観光と物流）拡大支援事業 | 一般社団法人 南三陸復興まちづくり機構 代表理事 山内 正文 | 宮城県 南三陸町 | 451 万円 |
| 第4回 | 被災地のものづくりコミュニティの継続的な運営と発展のための組合的販促支援強化事業 | 特定非営利活動法人 応援のしっぽ 代表理事 広部 知森 | 岩手県 宮城県 福島県 | 471 万円 |
| 第5回 | 街角・Café&軽食 桜さくら／フリースペースららぽーと | 特定非営利活動法人 夢みの里 代表理事 菅原桂子 | 宮城県 石巻市 | 340 万円 |
| 第5回 | 被災による子どもの貧困救済及び貧困連鎖予防事業 | 特定非営利活動法人 キッズドア 理事長 渡辺由美子 | 宮城県 仙台市 | 456 万円 |

| | | | | |
|-----------|-----------------------------------------------|------------------------------------------|-------------|-----------|
| 第5回 継続 | 津波被災地における女性視点でのくらしの課題解決の事業化支援第二期 | 特定非営利活動法人 ウィメンズアイ 代表理事 石本めぐみ | 宮城県 南三陸町 | 390 万円 |
| 第5回 継続 | 仮設住宅住民の心身の健康維持と災害公営住宅のコミュニティ形成 | 特定非営利活動法人 日本国際ボランティアセンター 代表理事 谷山博史 | 宮城県 気仙沼市 | 283 万円 |
| 第6回 | 仙台市若林区東部農村地域復興プロジェクト | 一般社団法人 ReRoots 代表理事 広瀬 剛史 | 宮城県 仙台市 | 460 万円 |
| 第6回 継続 | 地域住民への生活支援、地域コミュニティ形成の促進プロジェクト | 特定非営利活動法人 生活支援プロジェクトK 代表理事 阿部 正孝 | 宮城県 気仙沼市 | 400 万円 |
| 第7回 | 被災市民による地域コミュニティ維持・担い手育成並びに要援護住民支援の基盤づくりサポート事業 | 石巻仮設住宅自治連合推進会 会長 増田 敬 | 宮城県 石巻市 | 487 万円 |
| 第7回 継続 | 南三陸自然史学舎(しぜんしのまなびや) 構想実現のための2プロジェクト推進 | 特定非営利活動法人 海の自然史研究所 代表理事 藤田 喜久 | 宮城県 南三陸町 | 370 万円 |
| 第7回 継続 | 私営公民館の運営と地域コミュニティの活性化事業 | 特定非営利活動法人 雄勝まちづくり協会 理事長 及川 拓磨 | 宮城県 石巻市 | 200 万円 |
| 第8回 | 長屋門で地域再生～古民家活用モデル構築～ | くりはらツーリズムネットワーク 会長 小野寺 敬 | 宮城県 栗原市 | 470 万円 |
| 第9回 | 石巻市の地元住民による小中学校サポート活動を通じたコミュニティ形成事業 | 一般社団法人 プロジェクト結コンソーシアム 理事長 長尾 彰 | 宮城県 石巻市 | 490 万円 |
| 第9回 | 雄勝花物語 第5章「若者・お年寄り・女性の参加による故郷復興プロジェクト」 | 一般社団法人 雄勝花物語 代表理事 徳水 利枝 | 宮城県 石巻市 | 428 万円 |

| | | | | |
|------------|---------------------------------------------------|------------------------------------------------|-------------------|-----------|
| 第9回 継続 | 街角 Café 桜／フリースペース ららポート | 特定非営利活動法人 夢みの里 理事長 菅原 桂子 | 宮城県 石巻市 | 340 万円 |
| 第9回 継続 | 被災による子供の貧困救済及 び貧困連鎖予防事業 | 特定非営利活動法人 キッズドア 理事長 渡辺 由美子 | 宮城県 仙台市 | 399 万円 |
| 第10回 | 石巻の復興公営住宅における アートを通じて多世代が交流 できる新しいコミュニティ作り | 特定非営利活動法人 にじいろクレヨン 代表理事 柴田 滋紀 | 宮城県 石巻市 | 340 万円 |
| 第10回 継続 | 地域住民の生活支援および地 域コミュニティ形成の促進プ ロジェクト | 特定非営利活動法人 生活支援プロジェクトK 代表 前澤 由美 | 宮城県 気仙沼市 | 260 万円 |
| 第11回 | 食の循環を通して心と体を元 気にする地域支え合いプロジ ェクト | 一般社団法人 ワタマスマイル 代表理事 菅野 芳春 | 宮城県 石巻市 | 425 万円 |
| 第11回 | NPO・市民活動団体の活性化と 協働推進のための情報発信事 業 | 特定非営利活動法人 いしのまきNPOセンター 代表理事 大河原 惇 | 宮城県 石巻市 | 300 万円 |
| 第11回 | 復興公営住宅相互とNPOの連 携による新たな共助 (well-being)の体制づくり | あすと長町コミュニティ構築を考え る会 代表 飯塚 正広 | 宮城県 仙台市 | 488 万円 |
| 第11回 | 住むことを禁じられた海辺の まちの縁側づくり | 荒浜再生を願う会 代表 貴田 喜一 | 宮城県 仙台市 | 324 万円 |
| 第11回 継続 | 民間公民館の運営と地域コミ ュニティの活性化事業 | 特定非営利活動法人 雄勝まちづくり協会 理事長 及川 拓磨 | 宮城県 石巻市 雄勝町 | 290 万円 |
| 第12回 | 気仙沼大島における、地域住民 との協働による教育コミュニ ティの構築活動 | ACTION-students' project for 3.11- 代表 神田 大樹 | 宮城県 気仙沼市 | 330 万円 |

◆福島県 28件（新規助成18件、継続助成10件）（助成額合計1億1,224万円）

| | 事業名 | 団体名／代表者名 | 活動地域 | 助成額 |
|-----|--------------------------------------------|------------------------------------------------|---------------------------|-----------|
| 第1回 | 双葉町役場いわき事務所との連携による双葉町が抱える課題への支援事業 | 特定非営利活動法人 勿来まちづくりサポートセンター 理事長 舘 敬 | 福島県 いわき市 | 413 万円 |
| 第1回 | 障がい児の被災者家族の支援プロジェクト | 特定非営利活動法人 ふよう土2100 理事長 里見 喜生 | 福島県 いわき市 | 499 万円 |
| 第2回 | 次世代の若者による実践的地域社会課題解決プログラム | 一般社団法人 Bridge for Fukushima 代表理事 伴場 賢一 | 福島県内 | 420 万円 |
| 第2回 | ふくしま移住女性エンパワメントプロジェクト | 福島移住女性支援ネットワーク 代表 佐藤 信行 | 福島県 福島市 白河市 | 350 万円 |
| 第3回 | 小高区が「新たな一歩」を踏み出すための、世代間まちづくりワークショップ・農業交流事業 | 特定非営利活動法人 はらまち交流サポートセンター 代表理事 門馬 浩二 | 福島県 南相馬市 | 450 万円 |
| 第3回 | 福島の幼児の「外遊びデビュー」サポート | 特定非営利活動法人 こどもの森ネットワーク 理事長 橋口 直幸 | 福島県 福島市 郡山市 猪苗代町 | 400 万円 |
| 第3回 | 障がい者施設へのリサイクル機器貸与による障がい者就労機会創出・国内資源循環促進事業 | 特定非営利活動法人 くるりんこ 理事長 荒川 健吉 | 福島県 郡山市 | 400 万円 |
| 第4回 | いいたてミュージアム-までの未来へ記憶と物語プロジェクト- | いいたてまでの会 共同代表・幹事長 佐藤 彌右衛門 | 福島県 飯舘村 福島市 | 339 万円 |
| 第4回 | 福島県の子どもたちに過疎地域を活かした安心保育環境を提供する事業 | 特定非営利活動法人 移動保育プロジェクト 理事長 上國料 竜太 | 福島県 郡山市 | 318 万円 |
| 第4回 | 福島県いわき市におけるコミュニティづくり応援事業 | 特定非営利活動法人 シャプラニール=市民による海外協力の会 代表理事 岩城 幸男 | 福島県 いわき市 | 462 万円 |

| | | | | |
|-----------|--------------------------------------------------|--------------------------------------------------|-------------------|-----------|
| 第5回 | ふくしまの農業を現地で知り交流する「スタディファーム」の構築 | 特定非営利活動法人 がんばろう福島、農業者等の会 理事長 齊藤 昇 | 福島県 二本松市 | 470 万円 |
| 第5回 継続 | 障がい児の被災者家族の支援プロジェクト | 特定非営利活動法人 ふよう土 2100 理事長 里見喜生 | 福島県 郡山市 | 385 万円 |
| 第6回 | 原発被災地域の仮設住民仮設及びみなし仮設)のための要支援者・要介護者急増対策事業 | 特定非営利活動法人 NPO ほうらい 理事長 小林 義明 | 福島県 福島市 | 482 万円 |
| 第6回 継続 | 次世代の若者による実践的地域社会課題解決プログラム | 一般社団法人 Bridge for Fukushima 代表理事 伴場 賢一 | 福島県 全域 | 400 万円 |
| 第7回 | 食と農の再生・うつくしまプロジェクト～持続可能な地域資産循環型の福島復興へ～ | 特定非営利活動法人 福島県有機農業ネットワーク 理事長 菅野 正寿 | 福島県 全域 | 440 万円 |
| 第7回 | 帰村モデルとしての川内村地域再生事業 | 特定非営利活動法人 元気になるろう福島 理事長 根本 二郎 | 福島県 川内村 | 392 万円 |
| 第7回 継続 | 小高区が「アクションを積み重ねていく」ための、世代間まちづくりワークショップと提案事業の協働実践 | 特定非営利活動法人 はらまち交流サポートセンター 代表理事 門馬 浩二 | 福島県 南相馬市 | 400 万円 |
| 第8回 継続 | いいたてミュージアムーまでの未来へ記憶と物語プロジェクトー2015 | いいたてまでの会 共同代表 佐藤 彌右衛門 | 福島県 飯舘村 福島市 | 398 万円 |
| 第8回 継続 | 福島県の子どもたちに過疎地域を活かした安心保育を提供する事業 | 特定非営利活動法人 移動保育プロジェクト 理事長 上國料 竜太 | 福島県 郡山市 | 323 万円 |
| 第8回 継続 | 福島県いわき市におけるコミュニティづくり応援事業 | 認定特定非営利活動法人 シャプラニール＝市民による海外協力の会 代表理事 岩城 幸男 | 福島県 いわき市 | 317 万円 |
| 第9回 継続 | ふくしまの農業を現地で知り交流する「スタディファーム」 | 特定非営利活動法人 がんばろう福島、農業者等の会 理事長 齊藤 登 | 福島県 二本松市 | 400 万円 |

| | | | | |
|------------|--------------------------------------------|----------------------------------------------|--------------------------------------|-----------|
| 第10回 | 親子の健全な心と体の成長と地域の支援者を育成する「すくのび広場」の運営 | すくのびくらぶ 代表 前澤 由美 | 福島県 いわき市 | 500 万円 |
| 第10回 継続 | 次世代の若者による実践的地域社会課題解決プログラム | 一般社団法人 Bridge for Fukushima 代表理事 伴場 賢一 | 福島県 県内 | 300 万円 |
| 第11回 | 避難からの“次の暮らし”をつなぐ・支える応援プロジェクト | 特定非営利活動法人 市民公益活動パートナーズ 代表理事 古山 郁 | 県北地方 (福島市等) 山形県 米沢市 山形市等 | 450 万円 |
| 第11回 | 震災によって避難生活を送る子どもたちを支えるための教育・福祉支援とコミュニティづくり | 特定非営利活動法人 ビーンズふくしま 理事長 若月 ちよ | 福島県 郡山市 三春町 | 434 万円 |
| 第11回 継続 | 帰村モデルとしての川内村地域再生事業 | 特定非営利活動法人 元気になろう福島 理事長 根本 二郎 | 福島県 川内村 | 385 万円 |
| 第12回 | 福島県富岡町の暮らしの記憶を次世代へ継承する事業 | 特定非営利活動法人 とみおか子ども未来ネットワーク 理事長 市村 高志 | 福島県 富岡町 | 397 万円 |
| 第12回 継続 | いいたてミュージアムーまでの未来へ記憶と物語プロジェクトー2016 | いいたてまでの会 共同代表・幹事長 佐藤 彌右衛門 | 福島県 飯舘村 福島市他 | 300 万円 |